

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市西院老人デイサービスセンター

1 施設の管理運営

京都市老人デイサービスセンター条例に基づき、
・老人福祉法第20条の2の2に規定する老人デイサービスセンターとしての事業
・前号に掲げるもののほか、市長が必要と認める社会福祉の増進に関する事業を実施

2 事業実施内容

(1) 指定管理業務（本来業務：老人デイサービスセンター）
送迎サービス・入浴サービス・食事提供サービス・レクリエーションの提供・機能訓練・介護相談・健康チェック・ケアプラン作成

開所日：月曜日～日曜日（365日運営）
定員：35名
事業実施地域：京都市右京区（丸太町通以南・天神川通以東）、中京区（千本通以西・五条通以北）、下京区（千本通以西・五条通以北）
また、デイご利用者対象に、毎利用時に持ち帰り弁当を提供（デイサービスの選択サービスとして実施）

(2) 指定管理業務（企画提案業務：指定管理者が提案し、施設内で実施している業務。例：配食サービス）

自主事業の実施状況は、以下の通り。

3 サービス提供状況

<サービス提供体制>

管理者1名 生活相談員4名（兼職） 介護職16名（兼職） 看護師3名（兼職） 機能訓練指導員3名（兼職）

(1) 満足度の高いサービスの提供

昨年度に引き続き各部署コロナ関連でご利用者や職員に陽性者、濃厚接触者等多発的に発生。事業所内では全て1次感染で防止。2次感染には拡大せず日頃の感染対策について評価。感染状況が落ち着いている時期には感染予防策を行いながら外出行事も行い、コロナ禍での事業運営を各部署連携し、オンラインの活用等実施出来た。

(2) 職員のスキルアップと人材の育成・定着

・施設離職者2名（デイ1名、包括1名）、入職者3名（デイ2名、包括1名）
年度通じて離職者も少なく日々の職員皆様の関わりの賜物。最低欠員補充も行っており定着化が図れてきている。
・研修委員会を中心に施設内研修の機会をつくり、法定研修を中心にしながら外部講師も招き計画通り研修を実施した。
・コロナ禍でありながら昨年度に引き続き様々な実習・インターンシップを受け入れた。（総勢約20名）

(3) 地域との連携

・こども食堂は、7年目を迎えることができ、今年度1度も休むことなくテイクアウトで継続することができた。（毎月第3（金）17時～19時）
・当施設が福祉避難所に指定されている事も踏まえて、BCP（業務継続計画）策定⇒研修⇒訓練を一定実施する事ができた。

再委託の実施状況（協定書に明記のない再委託業務）は、以下の通り。（例：給食調理業務）

・給食調理業務

4 市内中小企業への発注に対する考え方

市内中小企業に事業を委託する場合は、以下の考え方に従って業者選定をしています。

委託への考え方

(1) 業務内容が専門的な知識を必要とし、かつ施設内の職員では対応が困難な業務の場合。
(2) 法人が専門的に行う業務ではないため、専門に行う業者のほうがより効率的に、かつ質の高いものを提供できると判断できる場合。
(3) 業務内容は簡易であるが、行う人材を集めることが容易でない場合、その業務を行える人材を集めることに特化した業者がある場合。
また、備品購入等の発注については、市内の業者を優先して活用しています。

5 施設の利用状況（本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) 延べ利用人数（実績値）

①令和5年度実績値

| | |
|--------|---|
| 10,159 | 人 |
|--------|---|

②令和6年度目標値

| | |
|--------|---|
| 10,585 | 人 |
|--------|---|

(2) 稼働率（実績値）

①令和5年度実績値

| | |
|------|---|
| 79.3 | % |
|------|---|

②令和6年度目標値

| | |
|----|---|
| 83 | % |
|----|---|

(3) 収支実績

ア 本来業務（老人デイサービスセンター）

| | |
|--------|-------------|
| 介護保険収入 | 111,871,611 |
| 利用料収入 | 9,080,161 |
| 委託料収入 | |
| 補助金収入 | 3,405,295 |
| 寄付金収入 | 6,000 |
| 雑収入 | 817,194 |
| その他 | 1,341,516 |
| 収入計 | 126,521,777 |

令和5年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

| | |
|-------|-------------|
| 人件費 | 77,425,691 |
| 事業費 | 17,331,307 |
| 委託費 | 11,226,467 |
| 小額修繕費 | 1,010,570 |
| その他 | 6,749,161 |
| 支出計 | 113,743,196 |

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

ご利用者にアンケートを実施。

(2) 利用者満足度把握の結果

アンケートの配布と回収 : 令和6年1月～約1か月間

配布枚数 : 110枚 回収枚数 : 49枚 アンケート回収率 : 44%

(3) 意見等への主な対応状況

コロナ禍における対応も緩和され、外出や外食等のお出かけの企画も少しずつ増やしていきたいと考えております。また私達職員は、ただ外出するだけでなく、外出することで、できるだけご利用者の皆様に動いていただくという事や外出を通して、生活リハビリに取り組んで頂こうと考えております。職員が「できるだけ自分でしましょう」や「歩きましょう」等お声掛けすることも多いかもしれませんが、「限り住み慣れたご自宅で暮らして頂く」を目的にしてお声掛けしていますので、ご承知いただければと思います。また夢を叶えるノートもございますので、行ってみたいことややってみたいこと等、是非ともご記入いただければと思います。今後も安全面や感染防止対策に注意しながら、様々なレクリエーションを提供できるよう努力してまいります。

7 その他特記事項

(1)

・デイご利用者による社会参加活動「sitePJ」内の刺し子倶楽部（ひとめひとめ）について、これまでの大学生との関わりの過程が2023年度京都市いきいきアワードにおいて大賞受賞する事ができた。

(2)

8 評価（指定管理者自己評価）

・昨年度に比べコロナ禍であったが、休業措置が緩和されたことにより一定収入は安定傾向。しかしながら、物価、燃料費等の高騰により運営状況を圧迫。経費削減を図りながらの運営であった。
・コロナ禍の中でも自立支援の取り組みとして、sitePJや企業等の研究事業協力について年度を通して実施出来ている。施設全体のイベントについては企画、実施には至っていないが、コロナ禍の状況に配慮しながらデイでの個別外出や包括での認サボ等感染予防対策を行い、実施できた。
・企業や大学からの研究協力やモニター調査協力を数件受け入れた。
・デイご利用者による社会参加活動「sitePJ」内の刺し子倶楽部（ひとめひとめ）について、これまでの大学生との関わりの過程が2023年度京都市いきいきアワードにおいて大賞受賞する事ができた。
・障がい者に対する差別の禁止及び合理的配慮の提供義務については、障がい者雇用や障がい特性、差別撤廃への社会的障壁や取組の現状等について職員研修を実施し学びを深めるようにしている。